

フロンティア

第四選挙区支部会報誌

FRONTIER



8号



人にやさしい暮らしのために
本誌は再生紙を使用しています。



PRINTED WITH
SOY INK

この印刷物は、自然環境に優しい大豆インキを使用しております。

気鋭のナイス・グループ 政治の課題、責任を語る！

NAIS

自由民主党の中核として活躍中の
根本匠(N)・安倍晋三(A)・石原伸晃(I)・塩崎恭久(S)四氏が
結成したNAISグループが、
政治の責任、社会保障、国家戦略など
今日の日本の政治課題について熱く語り合いました。



PROFILE プロフィール

塩崎 恭久

昭和25年生、東京大学卒業後、日本銀行を経て衆議院議員(平成2)、参議院議員(平成7)、今回衆議院議員当選。自民党外交部会長、衆議院外務・科学技術委員会理事等として活躍中

根本 匠

昭和26年生、東京大学卒業。建設省で「花と緑の万博」など担当。平成5年衆議院議員当選。第一次小渕内閣厚生政務次官、衆議院大蔵・厚生委員会理事等として活躍中

石原 伸晃

昭和32年生、慶應義塾大学卒業後、日本テレビにて政治記者として大蔵・外務・官邸等を担当。平成2年衆議院議員当選。第二次橋本内閣通産政務次官、衆議院環境委員会筆頭理事等として活躍中

「さきの衆議院選挙では、連立与党で絶対安定多数はとりましたが、大都市においては大変厳しい結果になりました。その点、皆さんはどうお考えでしょうか。」

根本

おかげさまで私は、今回の選挙では、すべての市町村で前回よりも票を伸ばし、票差も大きく開きました。また、都市部でも前は僅差でしたが、大栗田の郡山市でも二万の差をつけることができました。ただ、終盤は非自民の風が吹きましたので、影響したところもありました。

今回の衆議院選挙に関しては、私も敗北だと思っています。ですから、きちんと総括して、緊張感と危機感をもって臨まなければいけないと思っています。衆議院選挙で負けた原因は三つあると考えています。

一つは連立政権というのはある程度説明すれば理解はされますが、自民党の現職候補を降ろす、そういうようなことまでやったので、特定の政党へのアレルギーが出たと考えています。

二つ目は、自民党は政策をうまくアピールできなかったのではないかと考えています。私の場合は「橋本六大改革」は、いま

でも非常に重いと思っていたので、改革をやってきたのは自民党だ、改革の助走期間を経て、これからがさらなる構造改革の時期だ、と訴えたのですが、やはり自民党全体が政権政党としての実績を訴えるべきだったと思っています。

また、都市政策がなかったから負けたという議論がありますが、そんなことはありません。われわれは、中心市街地活性化法の立法化をはじめ、都市政策を展開してきました。その実績がうまくアピールできなかった、と考えています。

三つ目は、大変恐縮ですが、「寝てくれればいい」という発言がマスコミに大きく取り上げられたことです。これが終盤、非常に効きました。都市の浮動票は私の感じでも、少し持っていかれたのかなと思っています。



石原

私は一番都市部の東京で戦いましたが、おかげさまで私も三万票以上、前回より票を増やして勝たせていただきました。しかし、選挙が終わるとビールがうまいはずなのに、今回は美酒に酔うという雰囲気ではありませんでした。地方政治家の権化みたいな粕谷さんが落ちました。また、自民党らしくない環境派の小杉さんが落ち、あるいは間違いなく政調会長と言われていた与謝野さんが落ち、そして現職の通産大臣が落ちました。それを目の当たりにしたので、この後どうなるのだろうといった恐怖感のほうが強かったのです。よく使う言葉で、自民党のメルトダウンが始まった、というほどの危機感を持ちました。

原因は、いま根本さんがおっしゃったことで大体総括されていると思いますが、私は連立政権を政党人、議会人として否定するつもりではありませんが、なぜ自公なんだということの説明ができませんでした。これまで応援してきてくださった人たちに百八十度政策転換したことによって、反感・反発が相当あったのではないでしょう。言葉をかえると、負けるために選挙をやった、そういう印象を持っています。要するに、自公保の連立が良いか悪いかのようないふことを争点として選挙をやれば、負けるに決まっているわけです。そういうふう

塩崎

私は久しぶりに衆議院選挙を戦いました。

七年間衆議院選挙をやっていないわけですが、後援会組織というものは、選挙を戦って強くなるんだと思いますが、真ん中で一回抜けていますから、組織が皆さんのように連続して動いてなかったもので、非常に不安がありましたし、実際大変でした。しかし十一万弱の票、二番の人の倍くらいの票がとれて、大変ありがたかったです。

その一方で、これはいつも言っているのですが、女性を中心に「私には投票しただれども、比例代表は自民党に入れなかったわよ」という声があります。男の人は、自由党とか民主党というふうにおっしゃる人は少ないけれども、女の人は堂々と「私は民主党に入れたわよ」とおっしゃっています。この前女性からお手紙がきて、筆跡からすると割合若い人のようですが「あなたには投票したけれど、政党は共産党に入れました」とありました。そういうところで、自民党はかなり評価を下げているというところがよくわかりました。総括としては、今回の選挙は負けた、という認識からスタートしたほうが良いのではないかと考えています。

では、何故負けたのだろうかと考えますと、例えば私がとった票と、同じ選挙区で自民党がとった比例代表の票を割り出すと、五七%しかありません。前は七八%でした。まあ、山本公一さんのように、さらに郡部に行っても五三%しか取れていないということですから、公共事業で潤うというか、頼っているはずの地域でも、自民党に対する評価は非常に落ちているというところがよくわかります。

なぜかという、いまお二人から話がありました。やはり蓄積してきた国民に対するネガティブなもの、いわゆる自民党的なものに対するご批判があったのではないかと思います。皆が参加意識を持ってないような政策の決め方、かなり強引なやり方、急に手のひらを返すような決め方等に、ついていけないという思いがあると考えます。そして、それが三党のベースで行われて、連立は仕方がないとしても、運営の仕方に不信感を買ったところがずいぶんあったのではないかと思います。そこへ更に「寝ていてくれればいい」という発言がありました。選挙戦後半での苦戦の原因は、実はこの発言のためだけではなく、長い間のこれら運営や政策決定のやり方に対するご批判があるのも事実で、やはり根深いものがあると思います。

二十一世紀も目の前ですから、新しい政治の形というものを作らないといけないと思います。自民党に対する思いというのは

強いと感じるんですが、何とかしないといけないと考えています。

安倍

今度の総選挙で、三党では安定多数をとりました。そういう意味では、三党の連立は信任をされたとは思っています。ただ、都市部ではわが党は大変な苦戦をして、現職の議員が三十名以上落ちました。この事実は森総理をはじめ、私どもみんな、しっかりと噛みしめていかなければならないと思います。

なぜ都市部で振るわなかったかというと、決して基盤整備等において、都市部で手を抜いていたからということではなく、逆に地方はもともと基盤整備をやらなければいけない、都市部が進んでいるというのは、誰も否定できない現実だと思います。

ではなぜ都市部で弱かったかといえば、サラリーマン層の漠然たる不安に 대응することができなかったからだと考えています。国がこんなに借金をしているのだから、年金は大丈夫なんだろうか。医療の給付もしっかりと受けることができるのだろうか。そういう不安に対して、私どもはしっかりと説明することが足りなかったのではないかと反省を必要があると思っています。そういう意味において、社会保障政策というのは、二十一世紀を迎えるにあたって、極めて重要な政策になるだろうと思います。

次に、今もお話の出た社会保障についてお伺いしたいと思います。



石原

いま安倍さんがおっしゃられたように、漠然とした不安というものがあると思います。私の後援会は三世代にわたっています。二十代の若い人に話を聞くと、「年金保険料を払ったって、私たちが貰えないんですよ」とおっしゃるんです。「でも、君たち、保険料を払っておかないと、年金保険というのは自分たちが貰えないんだよ」という話をすると、「いや、大丈夫。私、生命保険に入ってるから」と答えが返ってきます。官より民の方を信用している、本当は国が一番信頼されてしかるべきはずなのですが、それが逆になっています。「民間の保険会社、つぶれてるよ。あそここの保険会社もおかしくなっただろう」という話をしても、「いや、こっこのほうが信用できる」と言われます。そういう話を聞いて愕然としました。彼らも、老後に対しての備えはしなければいけないという意識は持っています。しかも、年金制度のあり方論なんです。彼らは、自分の積み立てたものに金利が乗って返ってくるものであれば、国のものでも民間のものでもいいと言います。助け合うというよりも、自分の部分は自分でやる、ある意味では自立していると言えるんですが、そういう世代が増えてきているところ、これからの社会保障制度を作る上で重要ではないかと考えました。

根本

日本は少子高齢化社会ですから、将来、年金は大丈夫とか、いろんな不安感が出

ています。だからこそ、社会保障の議論というのは、いまの制度をきちんと見詰める必要があると思います。

いまの日本の社会保障制度、将来の所得保障の年金、病気になったときの医療保険、寝たきりになったときの不安を解消するための介護保険、この三つの社会保障制度の仕組みは先進国の中でもよく整っており、水準の高い制度です。そしてこれから大事なことは、この社会保障制度を、将来とも安定した効率的な制度に仕立て上げていく、これが大きな政治の課題だと思います。

社会保障の議論は、丁寧に説得することが大事だと思うんです。例えば、年金は将来本当にもらえるのかという議論がありますが、今回の年金改革で、将来も生活できるだけの年金は保障して、将来世代の負担増も出来るだけ抑制し、安定して運営できる仕組みを作りましたから、この年金改革によって、将来とも安定した制度でやっていけると思います。

ただ、少子高齢化社会が急速に進みますから、年金を払う世代、つまり支える世代と年金をもらう退職者の世代、この世代間

の不公平論というものが出てきています。

しかし本来、年金というのは、世代間、あるいは社会全体の助け合い、社会の連帯感、これがベースになっています。ですから、世代間の損得論というのは本来、社会保障の議論としてやるべきではないのではないかと思います。

基本的には、いま働いている世代が退職者を支える世代間扶養主義、この原理を中心に据えていくべきです。社会保険の原理というのは、お互いの支え合い、助け合い、共助の仕組みですから、これをベースにすべきなのです。この制度が安定して運営できるように必要な改革はしなければなりません。

日本の年金制度は、基礎年金の部分に現在、三分の一の国の補助が入っています。実は、官の年金は国が運営する年金ですから、絶対お得なんです。そして国が運営するから、絶対に崩壊することはありません。年金がつぶれるときは国が破綻するときです。そういうことは、われわれ政治家の責任として絶対にしませんから、いまの日本の年金制度をぜひご理解していただき

たいと思います。

塩崎

私は、独身で二十代半ば過ぎの私の秘書さんに「あなた、結婚したら子どもは何人欲しい?」と聞くと、「二人」と言います。「何で三人じゃないんだ」と聞くと、「やっぱり生活が心配です」と答えます。少子化対策というのを扶養者手当や、児童手当等、金目で解決しようしていますけれども、いまは不安状態、先行き見えない状態というのが決定的なのです。

少子化が進むというのは、もちろん女性の社会進出や晩婚化等、いろいろな原因がありますが、何をおいても、将来が見えないというところに最大の問題があります。いくらお金をつけても、それは国の借金が溜まるだけで、先行き自分の税負担が増えるというのは皆よくわかっています。ですから、そういう金の使い方をしても、将来に対する不安で帳消しにされて、あまり効かないだろうと思います。

先ほど石原さんがおっしゃったように、私のところで、どのミニ集会においても、一番出てくるのは年金の話題で「年金は払っても無駄でしょう、返ってこないんですよ」とおっしゃる方が多い。これは実は誤解に基づいているところもたくさんあって、最終的には、みんな税で補填できるわけです。

実は今回、年金法案を通しましたが、出生率一・三四というのを前提にしています。ところが、先般、一・三二に下がりました。財政再計算は五年先ですが、既に前



気鋭のナイス・グループ
政治の課題、責任を語る!

提が狂っているわけで、また厳しくなります。したがって、先日、われわれもかなり工夫をして、「年金なんかこわくない」というペーパーを出し、みなさんに理解していただこうとしました。また、若い人たちの負担を下げようということでやってきました。しかし、皆が抜本的にこれで大丈夫だと思っただけではなく、引き続いて将来が見えない、やっぱり心配だという不安感が続いています。

安倍

あの仕組は、出生率が一・六に回復するということが前提ですからね。

塩崎

ですから、そうじゃないということが既にわかっているわけです。最初でつまづいてしまっています。しかし、何が一番大事かというと、政治というのは、みんなの将来に対するビジョンを、こんなものですよ、こんなふうになるんじゃないでしょうかというのを、責任をもってきちっと見せるというところが大事なのです。経済政策で、本人の給料なり、ご主人の給料が確実に増えていくだろうと思わない限り、子どもの人数も増えません。そして守りに入って、年金についての不安、誤解も加わって、結局気持ちが悪化して、消費は鉦や太鼓を叩いてみても、この根本的なところを直さない限り、良くならないでしょう。

だんだん自分しか信用できなくなっていく社会情勢の中で、一番皆が信用できるのは、極端に言えば個人貯蓄ということですよ。

いまは理解されていないのですが、確定拠出型年金のようなものは、回り回って自分に負担が回ってくる可能性があることをみんなが悟ると、それだけに頼っていてダメなのかもしれない、頼れるものにみんなの心が動くということになるのではないかと思います。

根本

年金の問題で非常に強く感じるのは、安倍晋三官房副長官のリーダーシップで、われわれ「年金なんてこわくない」という年金改革の虎の巻的なものをナイスグループでまとめましたが、その発端は、あまりにも年金というのは誤解されている、ということからでした。これは、私が政務次官になつて強く感じたことです。年金は将来は下がると思われています。なぜそう思われたかというと、厚生省は年金改革に当たって五つの選択肢というものを提示しました。年金支給総額を二割削減されるケース、あるいは四割削減されるケース、そういうものを提示して、将来の負担がこの程度になりますよというものを五つの選択肢として出しました。それが非常に誤解されたわけです。

今回の年金改革は、年金支給総額を二割削減し、将来世代の保険料負担額を、負担できる範囲内に抑えることを狙ったものです。この支給総額二割削減は、総額で二割削減されるということであり、貰う人の額が現在よりも下がるわけではありません。支給総額をどうやって二割削減するか、



巻頭特集!

ですが、例えば、六十五歳まで働ける環境整備を行いながら、段階的に六十歳から六十五歳まで引き上げる、年金の将来の伸び率を適性化するなど、いくつかの工夫をしています。

個人の受け取る年金は、下がるわけではなく上がります。いま貰っている人は物価が上がれば上げます。

これから貰いはじめる人、現在貰える人、夫婦二人の年金額は二十四万弱ですが、今回の年金改革後も、平成二十五年で四十一万八千もらえるわけですから、決して下がるわけではなく、上がるのです。

少子化に歯止めをかけなくてはいけません。少子高齢化社会の動きを見ながら、われわれは年金を信頼できる安定したものに改革していきたいと思えますから、ここはぜひ政治を信頼して任せてもらいたいと思います。

安倍

さつき塩崎さんがおっしゃっていたことが重要な点は、今までは、こういう給付をしますよ、ああいう給付をしますよと言いますが、社会保障全体のパイは膨らんでい

きました。これは右肩上がりの経済があったからで、今後は、そういう高度成長は望めなくなっています。しかも、少子高齢化社会になっていくということを国民皆知っています。そういう中で給付を増やしますよということは、即負担につながります。むしろ、負担が果たしてどうなっていくかということの方に、関心が移っているのではないかと思います。

その中で、さつき根本さんがおっしゃったように、わが党は思い切った年金制度の改革を行いました。しかし、年金制度の改革を行っても、少子傾向がどうなるかという不安要素が入っているのも事実ですから、少子傾向をいかに緩和していくかという政策も、今後、もっとと打ち出していかなければいけないと考えています。

一番大切なことは、社会保障政策というのは、持続可能な政策でなければならぬということです。その中で、私たちがどういうことを理念としてもっていくかといえば、「無理なくできる負担で安心できる給付」、これを保障していくということだろうと思います。ですから、無理なく負担できる範囲の中で、また効率化を進めながら

負担をしていただく、その中で給付をしていくことが重要です。

それは、年金は年金だけ、医療は医療だけ、あるいは、ほかの社会保障は社会保障だけ、そういう考え方ではなく、総合的に考えていかなければいけないと思います。年金をもらって、年金の中から、例えば医療費や介護費用を払う、そういうものを総合的に見て、安心できる生活を保障していきますよ、ということだろうと思います。

今度の選挙でも訴えてきたつもりですが、社会保障の問題については、もっともっと私たち政治家が先頭に立って、国民の皆様を理解をしていただくように説得をしなければいけません。また、二十年、三十年先を見据えたビジョンを、諮問機関が結論を出すということになっていますが、内閣のビジョンも森内閣として示していきたいと私は思っています。

最後に、外交を含めて、この国を貫く国家戦略というものがいままであつたのだろうか、という指摘がなされていますが、その点についてお話しさい。

石原

私は国家戦略は、特に戦後はなかったと思います。戦後はアメリカに追従してきました。それまでは国家戦略があつて、朝鮮半島に出ていく、満州に出ていく、大東亜共栄圏のようなものが善し悪しは別にしてありました。しかし、そのあとは東西両陣営の対立が始まったので、片側の陣営についていきました。そして物質文明は過度に

発達して、生活は豊かになりましたが、それに比例して美意識とか、日本人の尊厳みたいなものが失われつつあり、そういった代償がいま出ていると思います。

ではどうするかということですが、政治家がそれを役人に任せてきたのが問題でした。国家戦略は、経済政策も含めて、政治家がグランド・デザインを描いて、こういう社会にするけれどもどうでしょうか、ということを経営に説明しなければならぬ事柄です。先ほどの社会保障でも同じですが、我慢してもらふところは我慢してもらわなければ、ない袖は振れないということまで来ているわけです。

六百四十兆とも五十兆とも言われている借金を負っています。金利が1%上がれば、単純計算すれば六兆を越える負担になります。それを消費税で飯にまかなうとすれば、六兆円とすれば、二%少しくなりまます。長期金利でも三%とか四%が平常なわけですから、経済が良くなつてくれば、今度は金利が上がって、国と銀行がまた困ることになりかねません。

その代替部分を国民が代わってくれているという、今の現状をはつきりと説明して、どうするかということを担当は言わなければいけないのです。しかし、明日は良くしましょう、明後日も良くしましょう、一年後はわかりません、というような対応には戦略がありません。戦術しかないと思うのです。

目指すべき国家像を政治家なり党が言わなければいけないと思うのですが、それがまだ言い切れていないのです。森総理の所

巻頭特集!

気鋭のナイス・グループ 政治の課題、責任を語る!

信表明がありました。目指すべき国家は出てきません。何をやるかという話は出てくるけれども、そういう書生論はい部分を国民は求めているし、塩崎さんがおっしゃられたように、将来のビジョンを示すのが政治だ、というところに不安を解消する二つのポイントがあるのではないかと気がします。抽象論で恐縮ですが。

塩崎

いま石原さんがおっしゃったのは全く私も同感です。一言で言ってしまうと、この国は、外交に限らず、コントロール・タワー欠如でこの五十年余り来てしまったと思います。特にニクソンショック、オイルショックあたりからではないかと思っています。それまでは、経済成長をすればいい、自



由で資本主義であればいい、ということ、コントロール・タワーは霞が関だったと思います。ポイント、ポイントでは政治からのコントロールがあり、例えば六〇年の日米安保条約を基本路線に置くという決断は政治家がしました。それこそ岸さんがやったのだと思います。

しかし、その後は、ずっと久しくコントロール・タワーなしに、どっちに向かったらいいのかよくわからなくなってしまう。いろいろなベクトルがあって、それは主にそれぞれの役所のベクトルが様々な方向を向いていて、最後に結果だけどっちと決まるようなことだったと思います。

私も外交部会長になってみて、一体日本の外交はどこで誰が決めているのかということが、少し心配になることがあります。

本来は、内閣が責任をもつのが憲法上の姿勢です。総理がトップにいて、各大臣がいて、内閣の過半数は国会議員ということになっているわけですから、結局、政治家が総理を中心に固めながら、役所の知識や能力をフルに活用し、また協調しながら、最後の責任は政治家がとる、そういう方向性をもちながら、確たるものを見せていかないといけないと思います。

いま、様々な国が生き残りを考えていろんな手を打って、先々を読んでやっています。役所の組織防衛の中からは、国家戦略は出てきません。

中曽根さんが、この間読売新聞に書いていましたが、内閣に国家戦略を練る部署をきちんと設けて、毎日の煩瑣なこととは別に、そういうところで国家戦略を練って、

その中から外交戦略が出てきて決まる。そういうところが見えると、国民からも海外からも、日本というのはこういう国なんだなというのがわかり、それがまた安心のものになるでしょう。

誰の利益のために、誰がどこで決めているのかというのが、いま一つわかりづらいことと、戦略なしに物事が一つ一つ決まっていっただけですから、国民はよく理解できないのです。しかし外交も、最後は条約と税金に帰ってくるわけですから、これはすべて国会を通さないとはいけません。ということは、与党の政治家による関与というのが、早めに入ってこないといけないのではないかと思います。

根本

私は、日本の将来を考えると、国家ビジョンを明らかにする、あるいは国家戦略を打ち立てて政策運営をする必要性を非常に強く感じます。

日本の国家のビジョン等を問いかけていくと、結局憲法に行き着くのだろーと思えます。私は護憲でも論議でもないのですが、やはり新しい日本の憲法をつくり上げる時に来ていると思います。戦後五十五年、第三の開国と言われている時代です。だからこそ新しい憲法をつくるべきなのでしょう。私の結論はそこなんです。

そして、国家戦略というのは役人では出てこないのではないかと考えます。各省庁は縦割りになっていきますから、それぞれの分野でものを考えていきます。そうすると、高度経済成長期、いわば経済成長至上主義

で豊かさを追求してきた時代は、産業政策なら通産省、というふうには省庁に任せておいて、その省庁でいい政策を練り上げてくれればうまくいきました。

しかし、これからは特に外交、安全保障の問題は、まさに国家戦略の最も基本です。から、これは一省庁に任せられないと非常に強く感じます。いまの中央省庁の縦割りの仕組みでは、国家戦略が典型なのですが、国全体のことを考える、あるいは各省庁の横断的な政策テーマというのは、政治家がリーダーシップをとっていかないといい政策が打ち出せないと思っています。

今度、一十戦略を国家戦略として位置づけたのは、安倍晋三官房副長官のホームランだと思えますが、情報というのは国家戦略の分野ですから、各省庁を糾合してやってゆかなければなりません。しかも、官邸がリーダーシップをとってやっていくということは、非常にタイムリーだと私は思います。

外交、安全保障というのは典型的な国家戦略ですが、これは外務省だけに任すわけにはいきません。特に安全保障の議論というのは、外交上の非常に大きな要諦になりまますから、安全保障の議論は国家的な見地に立って、われわれが新しい考え方を打ち出していくということが必要だと思います。ですから、これからの国家戦略を考えていく上では、官を超える政治のリーダーシップが非常に重要なポイントだと思います。

安倍

先ほど根本さんのおっしゃった憲法の問

題ということも、重要な指摘かもしれません。戦後五十五年間、われわれは本当にちゃんとした国家戦略を持ってきたのか疑問です。むしろ、「戦略」という言葉を使うことすら、躊躇を感じてきたというのが実態ではないでしょうか。

今度、森総理が所信表明演説の中で、戦略的な外交を展開していくことを述べられたことは、私は画期的なことだと思います。京都大学の中西先生や、外交評論家で元外交官の岡崎さんがおっしゃっているように、戦略に関しては、アングロサクソン、アメリカやイギリスの人たちは何百年の間、戦略的な思考を培ってきたと言えるのではないのでしょうか。外交の分野はもちろん、安全保障、あるいは食糧、そして情報・通信、金融といった分野は、戦略的に考えなければいけないということを彼らはよくわかっていて、実際そのようにやってきました。

わが国も、国益をどうやって守っていくか、わが国のこの繁栄をどうやって持続させていくか、国民の生命と財産を守るためにどうすればいいかということのために、総合的な戦略をしっかりとって、国益をしっかりと守っていくということを、そろそろ前面に押し立てていくことが大切です。またそれに対してわれわれ政治家は責任を持つていて、ということを実感し、これから戦略を立てて、それを示していかなければいけないと思っています。

——本日はお忙しい中、ありがとうございました。

選挙!

九州・沖縄サミットに向けての選挙!

いざ出陣!



凜とひびく必勝の拍手!

「三選」めざしてエイエイオー!



逆風の中にも
温かい手、手、手...

選挙活動



党の社会部会長として
社会保障制度の充実を
めざしています

弟の岸信夫も
「兄をよろしく。」

将来を見据えた目...

「あべは、やります!」





頼もしく嬉しい支援の人々

比例区の林義郎代議士も
「山口四区は
あべとお書き下さい。」



総決起

の力強いコブシが天を突く!



1票の尊さ、ぜひお力を!

林義郎、芳正両先生の熱い祝福



「当確」全国一番乗り!

豊浦郡四町でも力強い声援を受けて



豊浦町



菊川町

豊田町



豊北町

三選果たして決意も新たに 乾杯!



市町村名		有権者数	投票総数	投票率%	あ	べ	有効 得票率%	池之上
下関市		201,406	124,758	61.94	79,190	68.32	36,720	
長門市		19,763	13,134	66.46	10,024	80.23	2,469	
豊浦郡	菊川町	6,606	4,983	75.43	3,762	79.17	990	
	豊田町	5,929	4,447	75.00	3,151	75.04	1,048	
	豊浦町	17,078	12,275	71.88	8,446	71.63	3,345	
	豊北町	11,414	8,702	76.24	6,775	81.10	1,579	
	(計)	41,027	30,407	74.11	22,134	76.07	6,962	
大津郡	三隅町	5,212	4,095	78.57	3,281	83.89	631	
	日置町	3,813	3,116	81.72	2,585	85.45	440	
	油谷町	7,352	5,669	77.11	4,621	84.53	846	
	(計)	16,377	12,880	78.65	10,487	84.55	1,917	
市 計		221,169	137,892	62.35	89,214	69.48	39,189	
郡部計		57,404	43,287	75.41	32,621	78.60	8,879	
四区計		278,573	181,179	65.04	121,835	71.71	48,068	

安倍晋三代議士 内閣官房副長官就任祝賀会



12万票を超える高得票で三選し、めでたく内閣官房副長官に就任

ある日、ある時。

自民党社会部会長就任を祝う会で、「持続可能な社会保障制度の構築を」と抱負を述べる

安倍代議士 社会部



初セリ三題



下関唐戸魚市場



下関市中央卸売市場



下関漁港

ミレニアム新春の集いにこんなに多くの方々が出席



安倍 晋三 新春の集い



2000年の幕開けに新たな気持ちで抱負を語る

各テーブルの方々と



長門市

日置町



三隅町



油谷町



耳傾けて励まして



林代議士、伊藤県議の応援を受けて



山九会の皆さんと



飲食晋友会発会総会



JRときわ会の皆さんと



水産業界を代表する方々約200人が出席



歴史教科書を考える会



油谷町出初式



油谷町成人式

式典と祭り



彦島西山町のふれあいフェスタ



東亜大学園祭〈新関祭〉



再開50周年を祝う下関市卸売市場



柔道整復学会

安心して生活できる時代をつくる



可愛く明るく元気だな! (泉幼稚園)



老人保健施設コスモスを慰問する

医師会有志の方々と

最先端医療や介護保険を語り合う！



老人福祉施設長会にて



看護婦代表者会議にて



第4選挙区内後援会
女性部幹部会の皆さんと



王司漁協婦人部の皆さんと



彦島漁協の皆さんと



安岡漁協の皆さんと



才川漁協の皆さんと



長府漁協の皆さんと



漁協の皆さんと、多面的な水産について語り合う

つくし会の皆さんと



安岡ふるさと祭り



地域ごとに
後援の温かさ

先帝祭にて下関舞踊協会の皆さんと



くろがね会の皆さんと



下関市後田福祉作業所を訪ねて



下関市ケアマネージャーの会の皆さんと



伊倉出荷組合の皆さんと



西晋会役員の皆さんと



関門母会のみなさんと



婦人バレエグループ
の皆さんと



ばかり会スペシャル
の皆さんと



晋美会の皆さんと



活力ある社会の構築

いかなる地域にも、必ずチャンスはある！



つみき会の皆さんと



川原グループの皆さんと



御笹グループの皆さんと





室田グループの皆さんと



下関市内の税理士の方々による あべ晋三後援会の皆さんと



平山グループの皆さんと



草晋会役員の皆さんと



東部晋友会幹事の皆さんと



杉グループの皆さんと



丸山晋友会の皆さんと



笑坂会の皆さんと



竹林グループの皆さんと



多田グループの皆さんと

若葉会と
豊北町女性部との交流会



延行婦人部の皆さんと



王喜晋友会幹部の皆さんと



官房副長官

第2次森内閣組閣



司法制度改革審議会でも
幅広い補佐役ぶりを発揮



景気回復を最優先課題に…
財政首脳会議



亀井静香自民党政調会長と打ち合わせ



東京ビッグサイトで開催の
「21世紀夢の技術展」にて
―技術を視察

シドニーオリンピック
女子マラソンの金メダリスト
高橋尚子さんを祝福





政府専用機内で開かれる**機中懇談会**にて、
記者の質問に応じる森総理大臣と官房副長官

2000年-国連ミレニアムサミット出席のため
ニューヨークに到着



アフリカ統一機構 (OAU) 代表と会談する
森首相の補佐役として同席



森総理とキューバ・カストロ国家評議会議長
との懇談に同行



コフィー・アナン国連事務次官
と親しく会談

外交の安倍!ミレニアムサミットへ!

Summit



首相官邸における**フランス・シラク大統領**との
会談にて、首相と外相をサポート

首相官邸にて**EU (欧州連合) 首脳会議**に同席



主要国首脳会議(九州・沖縄サミット)
に随行し、**クリントン・アメリカ
大統領**と会談

九州・沖縄サミットを機会に
森総理とプーチン・ロシア大統領が会談

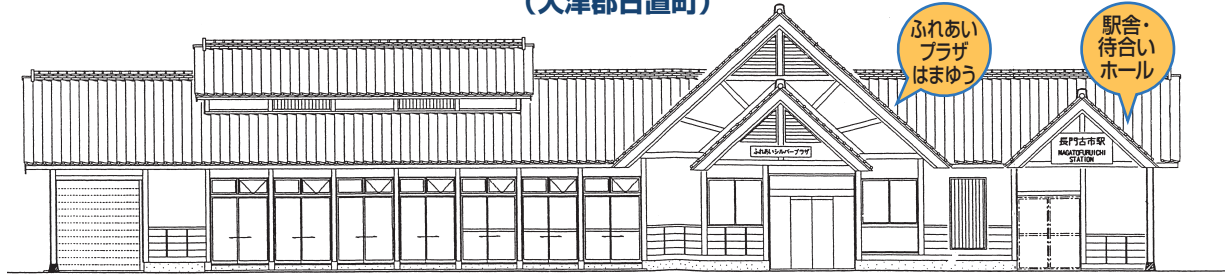


the Millennium



JR長門古市駅が ふれあいプラザはまゆうに!

(大津郡日置町)



介護保険制度が本年四月にスタートいたしました。大津郡日置町では昨年度から国がすすめる「介護予防拠点施設整備事業」に着目し、検討を重ねて来られました。

まず、高齢化が進むなかで、同町でも寝たきり老人や痴呆症状の予防措置と、高齢者のメンタルな視点からの健康づくり、生き甲斐づくりが急務となっており、町民の皆さんから高齢者と若年層との交流および、町民相互のコミュニケーション施設の整備が強く望まれていました。

そこで、JR長門古市駅の駅舎を改築して、「ふれあいプラザはまゆう」の建設が計画されました。

従来の駅舎を図のようにリニューアルして介護教室や介護講習会などを開くことにより、町民の皆さんに広く介護の大切さを認識していただくことができ、それらへの積極参加により介護予防事業の推進が早められ、加えて生涯学習などを通じて、ひとりひとりの健康づくりに弾みがつくものと期待されています。

安倍代議士もこの日置町の画期的な事業を推進するため、予算措置にあたって厚生省に説明をいたす等積極的に協力してこれ、事業の着工を心より喜んでいきます。

美しい山々と海と島嶼と入り江、万葉と楊貴妃の古代ロマン、そして心や体を癒してくれるので湯の町に、温かい気配りの介護予防と健康づくりの拠点施設が、来年二月には完成する予定です。



ふれあいシルバープラザ

栽培漁業センター

下関市吉母地区に 栽培漁業センター!

下関の吉母海岸は県内外からも多くの海水浴客や釣り人を集めています。海浜の一部浸蝕や冬季風浪時の被害も少ないとは言えず、下関市はその対策として、海岸保全機能を具備した快適な空間を包みこむ「吉母漁港海岸環境整備事業」に併せて新しい漁業への取り組みとなる「下関栽培漁業センター(仮称)」の建設を平成13年度を目途に着工する計画を進めています。

これは海域特性にあった栽培漁業や資源管理、あるいは中間育成施設を基本とした新しい増養殖事業を開発し定着させようとするものです。

市内漁業者による要望の高いアワビ、クルマエビ、ガザミ、カサゴなどの中間育成をはじめ、トラフグ、アワビ、トコブシ、ウニなどの種苗生産技術の開発、改良。あるいはワカメ、アラメなどの藻場造成に取り組むことは勿論ですが、更に幅を広げて山口県栽培漁業公社が行っているトラフグやヒラメなどの中間育成に関しても、積極的に当地区へ誘致しようとしています。

埋め立てなどによる用地の確保、諸施設の建設、海上生け簀の造成などには巨額を投じることになりますが、安倍代議士は農林水産省に度々折衝し、平成16年度までの長期にわたる大事業の実現にむけて貢献されています。

これが完成すれば漁業関係者をはじめ、多くの市民に「つくり育てる漁業」が新しい形として理解されることでしょう。